

【臨床指標 3】 初発の 5 大癌のUICC病期分類別ならびに再発患者数

●解説

現在、日本で最も罹患率の高い5つのがん（胃がん・大腸がん・乳がん・肺がん・肝がん）の病期（Stage）ごとの症例数を集計したものです。がんの症例数を調べることで、その病院がどの程度がん治療に積極的に治療をしているかを知ることができます。また病期分類別にみることで、その病院の診療の幅広さを知ることができます。

当院では、化学療法が外来で行なわれていることから、入院における胃がん、大腸がん、乳がんの再発治療が少なくなっています。また、肺がんではStageⅣの症例が多いことから、重症の患者が多いことが分かります。

なお、検査入院においてがんの確定に至らない場合のStageは不明となっています。

※ 病期(Stage)とは、がんの進行状態を示すものであり、0期からⅣ期の5つに分類されます。0期に近いほどがんが小さくとどまっている状態であり、Ⅳ期に近いほどがんが広がっている状態となります。

5大がん	Stage I	Stage II	Stage III	Stage IV	不明	再発
胃がん	81人	22人	25人	33人	36人	18人
大腸がん	45人	41人	80人	37人	26人	25人
乳がん	51人	59人	9人	4人	1人	16人
肺がん	76人	21人	51人	63人	79人	83人
肝がん	4人	5人	4人	8人	33人	92人